

オーディオ実験室収載

EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(17)(HP 収載)

—Marantz7 による調整(6)—

1. 始めに

前報(16)に引き続き、Marantz7 によるトーンコントロールの調整の効果イコライザーカーブ毎に詳細を詰めていきます。

2. トーンコントロールの調整方法

次の再生経路を設定します。

再生経路 1

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (EQ 可変) →Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 の EQ カーブの最適条件で再生する。

再生経路 2

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (RIAA 固定) →Marantz7 (ライン入力)

→Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 は RIAA に固定し、Marantz7 のトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

再生経路 3

Thorens TD124→My Sonic STAGE 1030→Marantz7 (フォノ入力) →
Brooklyn DAC+

*Marantz7 は RIAA でトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

*Marantz7 の Columbia カーブ選択も試す。

音源は EQ カーブの異なるアナログ盤を準備します。今回は Columbia カーブと思われる次の盤を選択します。

Columbia M2S 728

ショパン バラード 1 番

ホロヴィッツ

CBS Sony 2BAC 1635

ハイドン ロンドントリオ 1 番～6 番

ランパル／スター／ロストロポーヴィチ

3. トーンコントロールの調整結果

再生経路 1 では、ショパンのバラード 1 番は、Columbia、R、第 4 時定数 Low で再

生し、ホロヴィッツの鋭いタッチと、抑揚、緩急自在のピアノズムが聴き取れます。ハイドンのロンドントリオは、Columbia、R、第4時定数 Low で再生し、フルートのふくよかさ、ヴァイリンの切れ、チェロの落ち着いた音色が聴き取れ、ディジタル録音らしい明晰さがあります。

再生経路 2 では、ショパンのバラード 1 番は、RIAA、N、第4時定数 High で再生し、Marantz7 のトーンコントロールの Treble を 2 ノッチ、Bass を 1 ノッチ上げ、Brooklyn DAC+ で位相反転することにより、ホロヴィッツらしいタッチと低域の量感が出てきます。こういった対応をとらないと、音が鈍ってホロヴィッツらしい強靭なタッチが出てきません。

ハイドンのロンドントリオは、RIAA、N、第4時定数 High で再生し、Marantz7 のトーンコントロールの Treble を 2 ノッチ、Bass を 1 ノッチ上げ、Brooklyn DAC+ で位相反転することにより、響きの豊かさがでてきます。こういった対応をとらないと、平凡で焦点の定まらない音になります。

再生経路 3 では、ショパンのバラード 1 番は、RIAA で再生し、Marantz7 のトーンコントロールを再生経路 2 と同様にし、Brooklyn DAC+ で位相反転することにより、再生経路 2 に比べ響きが豊かすぎるくらいになります。また、Marantz7 のトーンコントロールをフラットに戻し、Columbia カーブの設定に替えますと RIAA で再生し、Marantz7 のトーンコントロールを調整したときの音に似ていますが、Marantz7 の Columbia カーブの設定の方がより自然な印象です。

ハイドンのロンドントリオは、RIAA で再生し、Marantz7 のトーンコントロールを再生経路 2 と同様にし、Brooklyn DAC+ で位相反転することにより、ふくよかな響きの音になります。また、Marantz7 のトーンコントロールをフラットに戻し、Columbia カーブの設定に替えますと、RIAA で再生しトーンコントロールを調整したときの音の同様、ふくよかな響きがしますが、Marantz7 の Columbia カーブの設定の方が、よりバランスの良い音になります。

4. まとめ

イコライザーカーブが RIAA でない盤を RIAA で再生した場合の違和感を Marantz7 のトーンコントロールを調整することで、一定程度カバーすることができました。なお、Marantz7 は Columbia カーブの設定がありますので、Marantz7 のフォノステージを使用する場合は、トーンコントロールを調整することは不要ということになります。

以上